

優秀賞

自ぜんの大切さを教えてくれたスイス

チエコプラハ日本人学校四年 山田 将也

七月二十六日、スイスのグリーンデルワルトでハイキングをしました。最初は「早く行きたいなあ。」と思ったけれど、歩けば歩くほど「もっとゆっくり見ながら行きたい。」という気持ちに変わっていききました。その理由はこの二つだとぼくは思います。

一つ目は、すばらしい山のけしきです。真っ青な空と雪をかぶったアイガーなど高い山がぼくにドーンとせまってききました。どこを見ても今までぼくが見たことのないすごい世界で、ヘリコプターより上の道を歩いているふしぎなけい験もしました。下の方には、小さく町が見えました。

二つ目は、初めて見た高山植物がたくさんさいていたことです。ガイドさんが、名前を教えてくださいました。たくさんありすぎておぼえきれなかったけれど、それらは牛のえさになる事も教えてもらいました。牛はウサギギクなどのやわらかい花が大好きで、トゲのあるキルシウムやもうどくのトリカブトはぜったい食べないと教えてもらいました。「牛はよくその事が分かるな。」とぼくは、おどろきました。

あともう一つ、スイスのハイキングコースにはすごいことがあります。それはゴミが落ちていないことです。ぼくはその事にもおどろいたけれど、少ししてまたおどろいた事がありました。それはいっしょに歩いていたガイドさんが道に落ちていたあめのふくろをなにも言わずに拾い、自分の服のポケットに入れたことです。その時ぼくは、野口健さんの「あきらめないこと、それが冒険だ」という本のことを思い出し

ました。みんながゴミを持ち帰るからスイスのハイキングコースはきれいなのだと思います。そして「ガイドさんのようにゴミを捨てる人がいるから、もっときれいなんだ。」と思いました。

二日後、ツェルマットでもまた山に登りました。マッターホルンが大きな顔を出していました。この時のハイキングでぼくは、いすの下に落ちていたティッシュを拾い、ごみぶくろに入れてホテルまで持って帰りました。ほんのほんの少しだけ、ぼくに自然の大切さを教えてくれた山にお礼ができた気がしました。

スイスでは、今まで見たこともない自ぜんのすばらしさを感じました。とても気持ちがよくまりました。そしてあらためて「ぼくたちはそんな山をよごさないようにしないといけない。」と思いました。日本のふじ山もゴミのないきれいな山になるといいなと思いました。